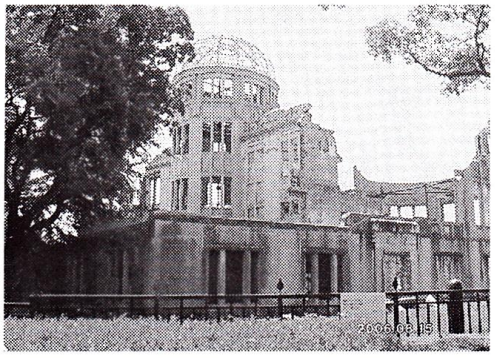
ヒロシマ ユネスコ



原爆ドームの遺産価値を守るために

周辺景観問題に大きな動き

世界遺産登録十周年の昨年、原爆ドームは、広島ユネスコ協会の主催事業をはじめ、記念の諸事業が実施される一方で、原爆ドームの景観保護をめぐる攻防に終始した一年でした。そして、このほど問題の高層ビル、ファーストレジデンス紙屋町が完成し、その巨体を現しました。

この高層ビル建設については昨年の本紙第六十四号において説明し、建設中止へ向けての広島市や建設業者、ICOMOS日本国内委員会（記念物及び遺跡に関する国際会議）に対する要請行動を報告いたしました。

今回は、その後の当協会を中心とする動きについて概略を報告し、今後の遺産保持と平和都市広島の景観保護の望ましいあり方を探ります。

ユネスコ・センター動く

昨年九月末、ユネスコ世界遺産センター所長フランシスコ・バンダリン氏、ユネスコ東アジア太平洋局長ジョバンニ・ボッカルディ氏宛に、現地調査の要請書を景観を守る会（被爆者、平和活動団体などで構成）と広島ユネスコ協会の連名で発送しました。これを受けて、ジョバンニ・ボッカルディ氏が十月三十日に来広、守る会と当協会の北川会長、高橋副会長らが会い、関係当局への働きかけを要望したのに対し、同氏は「皆さんの懸念は理解できるが、まずイコモス（ICOMOS＝記念物及び遺跡に関する国際会議）で議論されるがよい。商工会議所の建物は障害になっている。広島市は市民の意見を聞くなどして規制を設けられることを望みます。」と回答されました。

イコモス・シンポ広島で開催

昨年十一月二十九日、広島市でイコモス日本国内委員会とユネスコアジア文化センターの主催で世界の遺産保護の専門家（英、西、独、フィリピン、豪、米ほか）が出席して開かれた世界遺産条約・バッファゾーン会議は、景観保護のための勧告を広島市、広島県、日本政府を相手に採択しました。

勧告は問題のビルのほかに広島商工会議所の移転、危機遺産にも言及し、建物の高さなど拘束力のある規制を求めています。（全文を、当協会のホームページに掲載しています。）

広島市が美観形成要綱を改正

一方、広島市はこの勧告が採択された同日、美観形成要綱を次のように改正しました。

高さ規制の対象地区を四区分し、広島商工会議所から市民球場三塁側内野席付近を二十メートル以下、原爆ドーム西側隣接地区を二十五メートル、その南側地区を三十七・五メートル、平和公園の西側地区と南側地区を五十メートル各以下と設定し、建築事前協議の目安とします。しかし、法的拘束力はありません。

広島ユ協が広島市に要請書

当協会は、この二月、広島市に別掲内容の要請書を提出し、文書による回答を求めています。（三月末現在未回答）

原爆ドームを蔑ろにすることは、核兵器と核戦争に対する警戒心を後退させることになりかねません。日本の国および国民、広島市および市民は、原爆ドームを保護する義務を世界の国と人々に対して負っています。当面、条例の制定について行方を見守ります。

（常任理事・亀井　章）

〈原爆ドームの景観保護に関する要請書〉（要旨）

1　遺産保護の緩衝地帯内の現状変更に対する基本姿勢
(1)　既存高層建築物、「平和の門」建設の経緯と見解
(2)　平和大通りの電車道建設について
(3)　今後、現状変更を伴う建築・建設に対する厳正な対処
2　広島市美観形成要綱
(1)　規制対象地区の高さ設定の再検討（原爆ドームの高さを考慮した高さ設定。原爆ドーム対岸重視など）
(2)　対象地区外の高さ25メートル規制を大手町一丁目にも適用
(3)　早急に拘束力の強い条例施行への移行
3　景観に関わる建築・建設の関係部局間の連携
(1)　平和、文化財保護、都市デザインの部局間の連携強化
(2)　平和担当部局における世界遺産保護の分掌事務明確化
4　市民球場跡地利用、広島商工会議所等の景観保護重視
5　景観保護に関する市民意識、不動産業・建設業など都市開発関係企業・団体の意識啓発

編集・発行／広島ユネスコ協会（広島市中区袋町6番36号　広島市まちづくり市民交流プラザ　メールボックス89号気付・☎(082)823－2466<事務局長宅>）

第九回新春フェスタ盛大に

奨励賞表彰、女声合唱鑑賞など

国際理解・協力・交流の活動を顕彰する広島ユネスコ活動奨励賞（主催／広島ユネスコ協会、後援／広島市教育委員会）の表彰式と新春コンサートを組み合わせた恒例の『ユネスコ新春フェスタ２００７』は、九回目を迎えて一月二十八日、エンジェルパルテで開かれました。

第一部の第九回奨励賞表彰式では、まず、審査委員長の日本ユネスコ国内委員で広島経済大学中山修一教授が受賞団体のそれぞれの活動評価を交えながら講評。続いて北川会長から賞状と記念のブロンズ楯が次の団体に贈られました。

学校部門は四校。広島市立志屋小学校は歌やゲームを取り入れた英語教育、英語劇による表現活動を通じての国際交流。市立白島小学校は中国残留帰国者の児童への教育、実践活動。市立基町小学校は地域と一体の継続的な国際理解教育に関する実践活動に成果。市立宇品中学校は異なる文化を持つ国の人々を受容し共生することの出来る態度を育てる教育活動に対して。

社会部門は五団体。ＮＰＯ法人愛の架け橋プロジェクトは国際人として世界に通じる若者の育成と交流活動。ＮＰＯ法人ＨＰＳ国際ボランティアは平和の大切さ、命の尊さを考えるイベントを毎年開催。沼田日本語教室ボランティアグループは日本語スピーチコンテストなどによる日本語学習支援と日本文化紹介の交流会などの活動に対して。ひろしま・カンボジア市民交流会は現地に交流拠点としてひろしま・ハウスを建設するなどの活動、広島少年合唱隊は世界平和を求める広島市民の心を世界に伝えるための幅広い演奏活動を展開していることに対して。

表彰式の最後に受賞団体がそれぞれ活動内容を発表し合いました。

第二部は、おかあさんコーラス全国大会に出場するなど輝かしい活動で話題の広島女声合唱団による「新春シャンソンコンサート」。寺沢希さんの指揮、山下雅靖さんピアノ伴奏で「浜辺の歌」など懐かしい唱歌からジャズの歌曲まで、幅広いレパートリーを見事なハーモニーで披露し参加者を魅了しました。また合唱の合間に山下雅靖さんのピアノ即興演奏を楽しみ、アンコールの「仰げば尊し」ではステージと会場がひとつになって歌い、一同胸を熱くしました。

表彰式、コンサートに続くパーティーでは、受賞団体が入れ替わりメンバーの紹介やスピーチをするなど、和やかな雰囲気のうちにユネスコ会員と受賞者との交歓、交流の場は盛り上がりました。

今年も年の始めにふさわしい『ユネスコ新春フェスタ』となりました。

（写真上＝広島少年合唱隊代表者に賞状。下＝広島女声合唱団の演奏）

（常任理事・井尾義信）

寺小屋運動街頭募金を実施

広島大学附属高校ユネスコ班　光田悠理絵

私たち広島大学附属高校ユネスコ班は、去る三月二十一日、八丁堀天満屋前で「世界寺小屋運動」のための街頭募金活動を行いました。参加したのは、附属高校ユネスコ班・ユネスコ係十九名、先生三名そして広島ユネスコ協会の方六名でした。

この募金活動の目的は、ユネスコのすすめる「世界寺小屋運動」への協力です。「世界寺小屋運動」とは、世界の識字率を向上させ、地球上のすべての人が文字を読み書きできるようにするための運動です。

募金の前日に、世界には、働かなければならなかったり学校が近くになかったりして学校に行けない子どもが一億四百万人、学校に行けずに大人になり、文字の読み書きができない人が七億八千五百万人いることなどを学習、趣旨を理解した上で募金運動にのぞみました。

当日は、少し風があったものの、よい天気で、明るい雰囲気の中、たくさんの方のご協力のおかげで、一時間四十分で六万五三二六円の浄財を集めることができました。このお金は早速二十二日に顧問の藤原先生が日本ユネスコ協会連盟宛に送金しました。ご協力くださったみなさん、本当にありがとうございました。

今回の街頭募金は、四月から三年生になる私たち二年生六名にとっては、ユネスコ班としての最後の活動でした。二年間活動してきて、最後にこんないい経験ができたことを光栄に思っています。これも、顧問の先生、班員のみんな、温かいユネスコ協会の方々、そして、協力してくださった方々のおかげです。本当に感謝しています。来年度も街頭募金を行うことと思いますので、またよろしくお願いします。ユネスコの「世界寺小屋運動」の力になれるようこれからも活動していきます。

国際交流・協力の日

ドーム世界遺産十周年展など実施

「見つめよう地球　学ぼう協力の日」をメーンテーマに昨年十一月十九日、「国際交流・協力の日」は例年どおり国際会議場と周辺広場を会場に開催されました。広島ユネスコ協会は、「展示の部」と「原爆ドーム世界遺産登録十周年記念特別展」「青少年による国際交流・協力活動レポート」に参加・担当しました。

その概要を報告します。

【展示の部】

主催事業と原爆ドームの景観問題を取り上げ、写真と報道記事を中心とした展示をしました。内容は、八月十五日の「平和の鐘を鳴らそう」「新春フェスタ2006」の表彰式、シャンソン&トーク、中央公園での「ぺあせろべ」の模様など。

また、昨年初頭から大きな問題になった高層マンション建築に関連した原爆ドームの景観に関する写真・報道記事をとおしてその危機の実態を市民にアピールしました。

【原爆ドーム世界遺産登録十周年特別展】

「原爆ドーム」が世界遺産に登録されて昨年の十二月七日で十周年になりました。

世界遺産に登録しようと官民あげての運動が起こった頃からこのことに直接関わり、強い関心を持って当時から今日までの貴重な記録写真・報道記事・関連資料などを収集・整理されている広島平和文化センター職員西山松平さんの展示物の提供とご協力によるものです。当日は同センター関係課の職員さんが早朝から展示作業をお手伝いくださいました。

市民の方は往時を偲んで熱心に写真や資料に見入りながら、過ぎた十年を回想して感慨深げでした。（写真）

なお、この写真パネルは、西山さんの絶大なるご協力を得て、現在、市内各公民館で巡回展示しています。

【青少年による国際交流・協力活動レポート】

今回初登場事業で、まず青少年が参加し、発表や活動の機会や場を提供することを目的とするもので、四つの団体・グループが参加しました。

教育委員会青少年育成部関係の「広島市・大邱広域市青少年交流事業」と「第六回エイシアードASIAD開催都市ユースキャンプ報告」、広島平和文化センターの「青少年国際交流・協力スタディーツアー2006」、NPO法人愛の架け橋プロジェクトの「インド・ボランティアスタディーツアー2006」です。

活動例をあげてみると文化・スポーツ・文化交流と体験、平和学習・意見交換（討論）ホームステイ・環境問題・教育・都市紹介・現地NGOの活動現場視察・教育施設訪問・物資援助・福祉ボランティアetc。

その内容は多岐にわたります。発表にあたっては、発表に参加した青少年が、司会から視聴覚機器の操作、会場・進行など全て自主的に役割分担し、無駄のない運営がなされました。

また、機器をフルに活用し、来場者に活動内容をリアルに分かりやすく伝える工夫がされていました。

発表者はみんな元気で、自信に満ち溢れ輝いて見え、会場の大人も青少年もその活動内容に驚き、感動した様子で、青少年には大きなインパクトを与えたように思います。

（事務局長・山本隆信）

2006 中国ブロック・ユネスコ活動研究会in萩

この研究会は、昨年九月三十日午後から翌日にかけて、山口県萩市において、日本ユネスコ協会連盟、山口県ユネスコ連絡協議会、萩ユネスコ協会三者の主催により開催されました。

第一日目　午後二時から萩市民館大ホールで公演された、劇団さくら組のミュージカル「早春譜」を鑑賞しました。四時終演、本会場の萩本陣に移動。午後五時から開会式。中国ブロックユネスコ連絡協議会長・脇正典氏の開会挨拶、萩ユネスコ協会長・村田昌志氏他の挨拶があり、次いで日本ユネスコ国内委員・北川建次氏（当協会会長）から国内委員会報告が行われました。

ついで講話。講師は日ユ協連盟理事長・野口昇氏。限られた時間でしたが、その主な内容は、いまユネスコの課題となっている「世界遺産」を護る活動、そして、アジアその他の発展途上国の人々の識字教育を中心とする「世界寺小屋運動」に対して、日本のユネスコ活動がどのように協力しようとしているのか、またどのように協力しうるのか、というものでした。この講話に続き、同連盟事務局の「組織現況と実務研修」のプレゼンテーションがあり、講話の理解を深めることができました。

七時からレセプション及び交流会が催され、ブロック内の各地から参加した皆さんが、心から打ち解け「ユネスコの歌」を歌い、意見を交換することができました。

第二日目　朝九時から分科会。①世界寺小屋運動　②世界遺産と地域の文化財③これからのユネスコ活動、の三分科会に分かれて討議し、十時四十五分から報告会。小生は③の分科会に参加しましたが、そこで痛感したのは、如何にしてわれわれのユネスコ運動を若い世代に広げるか、ということでした。

全体会では、鳥取ユ協の赤木綾香氏の「インド旅行」、石見地区ユ協の内藤淳彦氏の「東アジア子ども美術館」の報告もありました。そのあと、連盟事務局の「新年度活動方針と連絡事項」が承認され、最後に、山口県ユネスコ連絡協議会の「まとめ」をもって閉会いたしました。

（会員・宇野　豪）

〈ユネス出前コサロン〉ヒロシマをさがそう―原爆を見た建物～写真家 井手三千男を語る

広島ユネスコ協会と日浦公民館が共催して、去る十一月二十五日(土)に第百二十七回ユネスコサロンを日浦公民館で開催しました。

今回は昨年三月の古田公民館に続いての二回目の出前サロンで、「写真家 井手三千男を語る」をテーマに、都市計画プランナー 山下和也さんと安佐北区役所 叶真幹さんを講師にお迎えしてお話を伺いました。

写真家 井手三千男さんは、安佐北区安佐町後山出身で昨年六月、被爆建物のガイドブック編集途中に急逝されました。その後、山下和也さんと叶真幹さんに引き継がれ、「ヒロシマをさがそう―原爆を見た建物」として同年九月に刊行されました。

三人はこれまでに被爆建物の調査を行い、その成果を十年前に調査報告書として刊行。十年後に再び三人の作業が始まり、出来上がった本がこのたび刊行されたもの。被爆建物一五七件が掲載されています。サロンでは、出版の経緯や井手さんのこの本に対する思い、十年前の刊行時のエピソードや資料館に残る井手メモを紹介されるなど、井手三千男さんをよく知るお二人に、プロカメラマンとしてのその仕事ぶりや人間性を語っていただきました。

会場には、井手さんのご家族や恩師、友人、地元の方など五十五人の参加を得てこれまでの業績をたたえました。

（常任理事・國田　繁）

ぺあせろべ2006 国際交流の輪広がる

恒例のぺあせろべ２００６が去る十月十五日(日)午前十時から好天の中、中央公園芝生広場で開催されました。

今回はＦＵＳＩＯＮ～融合～をテーマに掲げ、広島ユ協など五十団体が参加し、ステージ、物産販売や料理などのブース、ダンスや踊りの広場などが多くの人で賑わいました。

当協会はブースや広場を利用して、日用品や木の葉などを使った創作教室、わらぞうり、竹馬、竹トンボ、ミニ凧、しゃぼん玉の体験コーナーを設け、テントの廻りには世界遺産原爆ドームの景観問題や事業の取り組みなどを掲示し、広くユネスコ活動を紹介しました。

（常任理事・國田　繁）

日誌

〈２００６年９月〉

28日／国際交流・協力の日展示説明会（国際会議場）事務局長ほか

30日／原爆ドーム周辺現地調査依頼　イコモス世界委員会

30～10月1日／中国ブロック・ユネスコ活動研究会（萩市）会長ほか五名

〈10月〉

5日／機関紙　第65号発行

13～22日／世界遺産からのＳＯＳ　写真映像展（そごう広島店）日ユ協連主催

15日／ぺあせろべ２００６（中央公園芝生広場）

19日／国際交流・協力の日第三回実行委員会

30日／ユネスコ東アジア太平洋局長・ボッカルディ氏に要請文手交（二葉公民館）

〈11月〉

9～12月14日／はじめてのハングル（全六回　青少年センター）

11日／広島大学附属高校教育研究会「持続可能な開発のための教育」（広大附属高校）

19日／国際交流・協力の日展示、青少年による国際交流・協力活動レポート発表会、原爆ドーム世界遺産登録十周年記念特別展（国際会議場）

25日／第百二十七回ユネスコサロン―写真家　井手三千男を語る（日浦公民館）

27日／因島ユネスコ協会研修会（尾道市重井町）の講師に北川会長・亀井常任理事

29日／イコモス・シンポジュウム「世界遺産と日本」、勧告書採択（ホテルグランビア）会長ほか

29日／広島市改正景観要綱発表

〈12月〉

2～23日／高校生の英会話（全三回　青少年センター）

4日／専門部会長会議　原爆ドーム景観問題協議、2／6も（市民交流プラザ）

4日／ユネスコ活動奨励賞審査会（広島国際学院大学立町キャンパス）中山修一氏ほか

10日／「原爆ドーム世界遺産登録十周年記念特別展」巡回開始（中区・安芸区3／25終了以後全区巡回予定）

19日／奨励賞表彰文検討会（広島国際学院大学立町キャンパス）教育部会長ほか

〈２００７年１月〉

18日／国際交流・協力の日第四回実行委員会

28日／新春フェスタ２００７表彰式・コーラス&トーク・パーティー（エンゼルパルテ）出演：広島女声合唱団

〈2月〉

4日／国際理解セミナー（広島留学生会館）広島平和文化センター主催

21日／ひろしま国際サミット総会・広島地域分科会（広島ガーデンパレス）

22日／「原爆ドームの景観保護に関する要請書」提出（市長宛・広島市役所）高橋副会長ほか

〈3月〉

2日／国際交流・協力の日参加団体交流会（広島留学生会館）山本事務局長ほか

17日／第百二十八回ユネスコサロン―モンゴルと日本　モンゴル協会　小中勝利（広島国際会議場）

17日／第三回理事会（同）

21日／ユネスコ世界寺小屋運動街頭募金（八丁堀天満屋広島店横）広大附属高校ユネスコ班と共催

28～29日／杉並ユネスコ青年部広島スタディー二十一名（平和文化センターほか）証言　高橋副会長

27日／講演会「世界遺産教育の課題」（県立広島大学）

30／機関紙　第66号発行